

教育子ども委員会 説明資料

平成31年3月12日

教育委員会

目 次

	頁
1 不登校児童生徒について	・・・ 1
2 特別支援学校アドバイザーの派遣について	・・・ 3
3 学校司書の配置について	・・・ 5
4 学校給食のあり方懇談会の主な意見について	・・・ 6
5 小学校給食調理業務委託について	・・・ 7
6 鶴舞中央図書館奉仕課奉仕第一係の人員体制及び業務分担について	・・・ 9
7 図書購入費の推移について	・・・ 10
8 博物館の魅力向上調査について	・・・ 11
9 博物館建物内における用途別の割合について	・・・ 12
10 博物館配置図について	・・・ 13
11 博物館収蔵庫の使用率の推移について	・・・ 14
12 博物館における収蔵資料について	・・・ 15
13 瑞穂公園配置図について	・・・ 16
14 B 6 型蒸気機関車の動態展示について	・・・ 17

1 不登校児童生徒について

(1) 不登校の要因

ア 本人に係る要因

(単位：人)

区 分	28年度			29年度		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
「学校における人間関係」に課題を抱えている。	70	283	353	58	239	297
「あそび・非行」の傾向がある。	8	145	153	15	109	124
「無気力」の傾向がある。	283	627	910	281	603	884
「不安」の傾向がある。	261	535	796	258	622	880
「その他」	65	123	188	116	172	288
計	687	1,713	2,400	728	1,745	2,473

イ 学校及び家庭に係る状況

(単位：人)

区 分		28年度			29年度		
		小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
学校に係る状況	いじめ	4	11	15	1	2	3
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	112	418	530	111	436	547
	教職員との関係をめぐる問題	24	80	104	37	85	122
	学業の不振	131	501	632	134	604	738
	進路に係る不安	4	83	87	7	135	142
	クラブ活動、部活動等への不適応	6	54	60	-	62	62
	学校のきまり等をめぐる問題	18	131	149	17	113	130
	入学、転編入学、進級時の不適応	67	150	217	19	194	213
家庭に係る状況		293	457	750	337	519	856
該当なし		152	230	382	220	393	613

(注) 複数の区分に該当する場合は、それぞれに計上した。

(2) 学校復帰率

(単位：人、%)

区 分	28年度			29年度		
	不登校 児童生徒数	復帰者数	復帰率	不登校 児童生徒数	復帰者数	復帰率
全 体	2,400	789	32.9	2,473	469	19.0
うち 子ども 適応相談 センター	409	179	43.8	464	213	45.9
うち ハート フレンド なごや	141	68	48.2	126	57	45.2

(注) 不登校児童生徒数には、子ども適応相談センターについては通所者数を、ハートフレンドなごやについては不登校の来所相談者数、訪問相談者数の合計をそれぞれ掲げた。

2 特別支援学校アドバイザーの派遣について

(1) アドバイザーの概要

ア 学校運営アドバイザー

区 分	主な職種	回数／校	主 な 助 言 内 容
特別支援教育の 専門家	大学教授	2回	・管理職のマネジメント ・教職員の指導力向上
人権・法律等の 専門家	弁護士	2回	・人権感覚向上 ・虐待・体罰の防止

(注) 対象は主に管理職である。

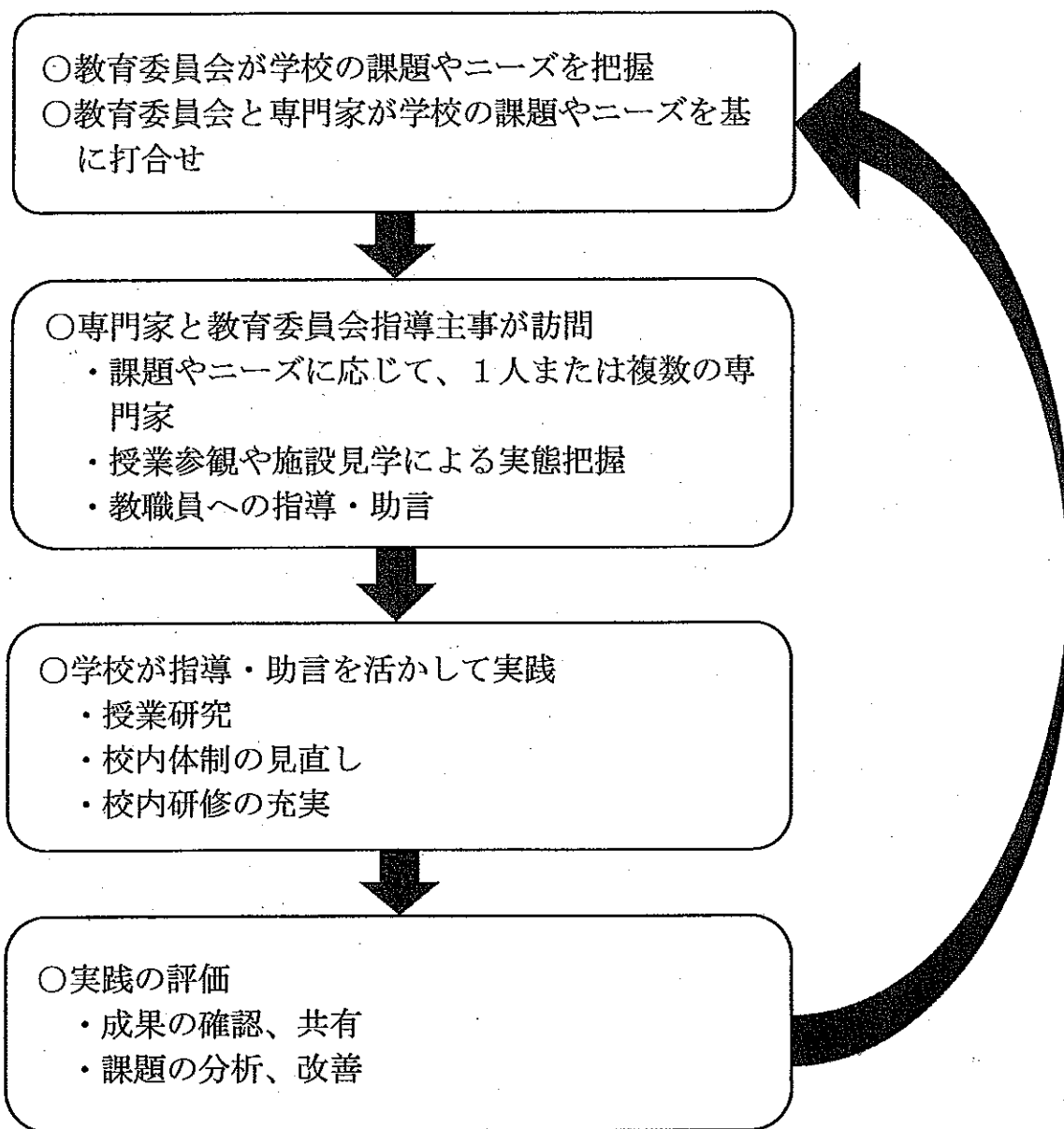
イ 指導法アドバイザー

区 分	主な職種	回数／校	主 な 助 言 内 容
授業改善に関する 専門家	大学教員	6回	・授業研究、授業検討の方法 ・教育内容、指導計画
指導法に関する 専門家	作業療法士 言語聴覚士	6回	・障害のある子どもへの接し方 ・障害に配慮した環境整備
就労等に関する 専門家	就労支援事業 所職員、企業 関係者	3回	・就労等を見据えた教育内容 ・自立に必要なスキル
保護者対応等に 関する専門家	臨床心理士	3回	・個別の教育支援計画の活用 ・保護者との連携

(注) 対象は教職員である。

(2) 運用について

ア 手順



イ 訪問時の内容

- 授業参観
- 施設見学
- 教職員への指導・助言
- 授業検討会への参加
- 各種校内委員会、ケース会議への参加
- 教職員への研修

3 学校司書の配置について

区 分	配 置 校
28年度	稲西小（中村）、一柳中（中川）、白水小（南）、 戸笠小・滝ノ水中（緑）、上社中（名東）、植田南小（天白）
29年度	富士見台小（千種）、東白壁小（東）、光城小（北）、 なごや小（西）、稲西小（中村）、前津中（中）、川原小（昭和）、 弥富小（瑞穂）、高蔵小（熱田）、八熊小（中川）、港西小（港）、 桜田中（南）、吉根中（守山）、滝ノ水中（緑）、 平和が丘小（名東）、植田南小（天白）
30年度	富士見台小・若水中（千種）、東白壁小・富士中（東）、 東志賀小・光城小（北）、なごや小・城西小（西）、 ほのか小・八社小（中村）、老松小・前津中（中）、 川原小・北山中（昭和）、弥富小・汐路小（瑞穂）、 高蔵小・白鳥小（熱田）、八熊小・八幡中（中川）、 港西小・港楽小（港）、春日野小・桜田中（南）、 小幡北小・吉根中（守山）、常安小・大高中（緑）、 猪高小・平和が丘小（名東）、平針小・植田北小（天白）

（注）平成28年度は学力向上サポート事業において、学校図書館司書を配置した学校を掲げた。

4 学校給食のあり方懇談会の主な意見について

区 分	内 容
学校給食の充実	○なごやめし献立の取組みは、普段、提供できない献立を提供することができ、子どもたちにはよい食体験となった。 ○給食の内容を充実するためには、給食費の値上げはやむを得ないのではないかと。ただし、様々な事情の家庭があることも考慮してもらいたい。 ○一定の期間を決めて、定期的に給食費の見直しを検討することも必要ではないかと。
給食費に係る保護者負担の軽減	○給食費無償化は、賛成意見と反対意見がでてくるので実施する目的をしっかりと考える必要があるのではないかと。 ○給食費の全額無償化は難しいかもしれないが、4月1カ月分だけでも無償化されれば、年度当初で忙しい学校現場の負担軽減にもなるし、学用品等を新たにそろえるために費用がかかる保護者の負担軽減にもなるのではないかと。
給食運営に係る学校負担の軽減	○学校では給食費以外にも徴収金があり煩雑な作業をしているので、他の学校徴収金も含めて、公会計化を考えてもらえるとよいのではないかと。 ○給食費の徴収業務を教員から切り離し、子どもをしっかりと見て教育をしてもらいたい。
その他	○だしの良さを活かした給食を提供しているので、月に1日、牛乳を提供しない完全な和食の日があってもよいのではないかと。 ○カルシウムは子どもの成長にとっても大切な栄養素なので、1日でも牛乳を提供しないことは難しい。

5 小学校給食調理業務委託について

(1) 30年度委託開始校

(単位：食、千円、者)

区 分	食 数	契約業者	契約金額	入札参加 業 者 数
田 代 小 学 校	1, 1 6 3	株式会社トモ	3 0, 4 5 6	3
稲 葉 地 小 学 校	7 0 5	株式会社松浦商店	2 3, 6 5 2	2
松 栄 小 学 校	8 6 5	一富士フードサービス株式会社	2 5, 6 6 1	2
千 音 寺 小 学 校	7 3 8	株式会社ミツオ	2 3, 7 1 7	3
苗 代 小 学 校	7 9 6	日本ゼネラルフード株式会社	2 4, 4 9 4	2
大 高 南 小 学 校	7 3 1	大一食品株式会社	2 8, 1 8 8	2
植 田 東 小 学 校	7 7 1	メーキュー株式会社	2 4, 5 5 9	3

(注1) 食数は、平成29年5月1日現在の数値を掲げた。

(注2) 契約金額は年額を掲げた。

(注3) 大一食品株式会社は平成30年7月に葉隠勇進株式会社へ社名変更した。

(2) 31年度委託開始校

(単位：食、千円、者)

区 分	食 数	契約業者	契約金額	入札参加 業 者 数
味 鉢 小 学 校	702	メーキュー株式会社	23,328	1
滝 川 小 学 校	863	一富士フードサービス株式会社	28,201	2
常 磐 小 学 校	887	株式会社ミツオ	26,568	3
守 山 小 学 校	734	日本ゼネラルフード株式会社	25,764	2
鳴海東部 小 学 校	871	ハーベストネクスト株式会社	27,302	2
有 松 小 学 校	764	葉隠勇進株式会社	24,084	2
原 小 学 校	730	日本ゼネラルフード株式会社	27,410	1

(注1) 食数は、平成30年5月1日現在の数値を掲げた。

(注2) 契約金額は年額を掲げた。

(注3) 守山小学校及び有松小学校は、入札無効となった業者1者を含む数値を掲げた。

6 鶴舞中央図書館奉仕課奉仕第一係の人員体制及び業務分担について

(1) 人員体制

(単位：人)

区 分		30年度	31年度
奉仕第一係	係 長	1	1
	司 書	12	9
	嘱 託 員	17	17
派遣職員		—	4
計		30	31

(注) 派遣職員の人数は、開館日の派遣人数を掲げた。

(2) 司書と派遣職員の主な業務分担

区 分	30年度	31年度
司 書	選書、レファレンスサービス、 各種事業の企画・運営、 窓口業務、電話応対、 事務作業 等	選書、レファレンスサービス、 各種事業の企画・運営、 電話応対、事務作業 等
派遣職員		窓口業務、電話応対、 事務作業 等

(注) 児童室及び点字文庫の業務は除く。

7 図書購入費の推移について

(単位：館、千円)

区 分	館 数	予 算 額
11年度	17	349,318
16年度	19	249,978
21年度	20	200,248
26年度	21	205,715
30年度	21	162,086
31年度	21	147,448

8 博物館の魅力向上調査について

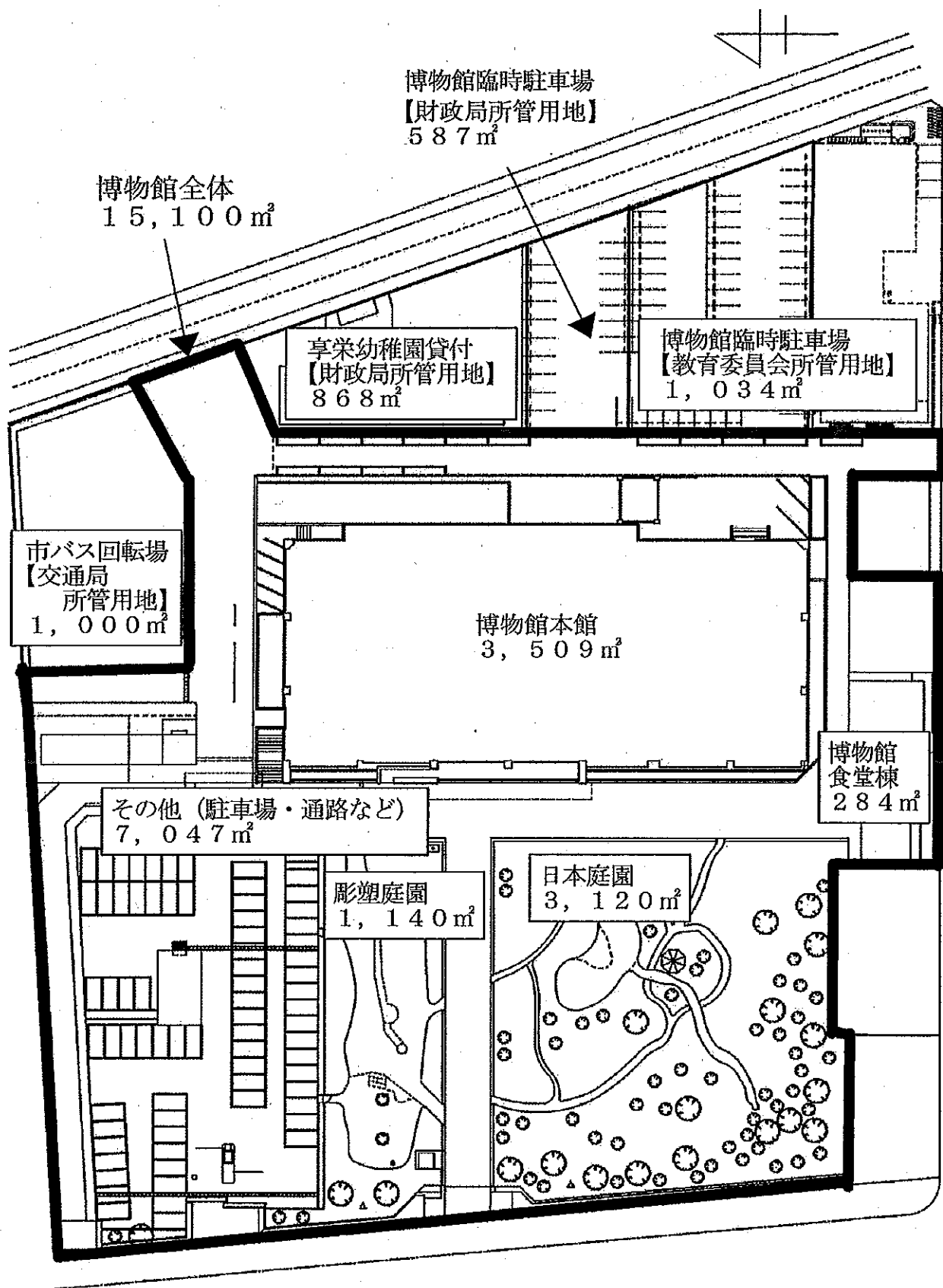
区 分	内 容
趣 旨	大規模な展覧会の誘致や作品の魅力を体感できる展示等、博物館の魅力向上に向けた調査等を実施する。
調査内容	地域との連携や民間のノウハウ等の活用を視野に入れながら、今後の博物館の方向性の基礎となる調査を行う。 ○展示室 豊富な資料の効果的な活用や、多様な展覧会の開催に対応できる必要面積と仕様 ○収蔵庫 多様な資料に対応できる必要面積と仕様 ○その他施設 市民ニーズの変化に対応 ○秀吉清正記念館 魅力向上に向けた施設改修、展示内容、運営方法等についての検討

9 博物館建物内における用途別の割合について

(単位：％、㎡)

区 分	割 合	面 積
特別展示室	5. 3	9 6 3
常設展示室	1 0. 3	1, 8 6 8
収蔵庫	1 2. 3	2, 2 2 3
展示説明室	1. 5	2 6 5
講堂	2. 1	3 7 8
ギャラリー	8. 9	1, 6 1 6
事務室・作業室等	4. 5	8 0 9
機械室・監視室・防災センター	9. 6	1, 7 3 8
ホール・ロビー・通路・階段等	2 5. 3	4, 5 8 4
その他	2 0. 2	3, 6 6 4
計	1 0 0. 0	1 8, 1 0 8

10 博物館配置図について



(注) 博物館全体面積には、上下水道局所管用地の使用許可面積1,955 m²を含む。

1 1 博物館収蔵庫の使用率の推移について

(単位：㎡、%)

区 分	保管資料	面 積	使 用 率				収蔵庫外 含む概算 使 用 率
			15年度	20年度	25年度	29年度	29年度
第1収蔵庫	考 古	175	100	100	100	100	120
第2収蔵庫	民 俗	689	94	99	100	100	160
第3収蔵庫	考古・民俗	264	92	98	100	100	130
第4収蔵庫	一時預かり 及び寄託品	405	85	99	100	100	107
第5収蔵庫	美術工芸 文書典籍	367	80	90	94	95	95
第6収蔵庫	文書典籍	189	82	99	100	100	130
計		2,089					

(注1) 面積は使用可能面積であり、建築面積と一致しない。

(注2) 使用率は、収蔵庫に設置されている棚の使用状況を示す。

(注3) 収蔵庫外は館内の部屋・スペース、スポーツ振興会館会議室である。

1 2 博物館における収蔵資料について

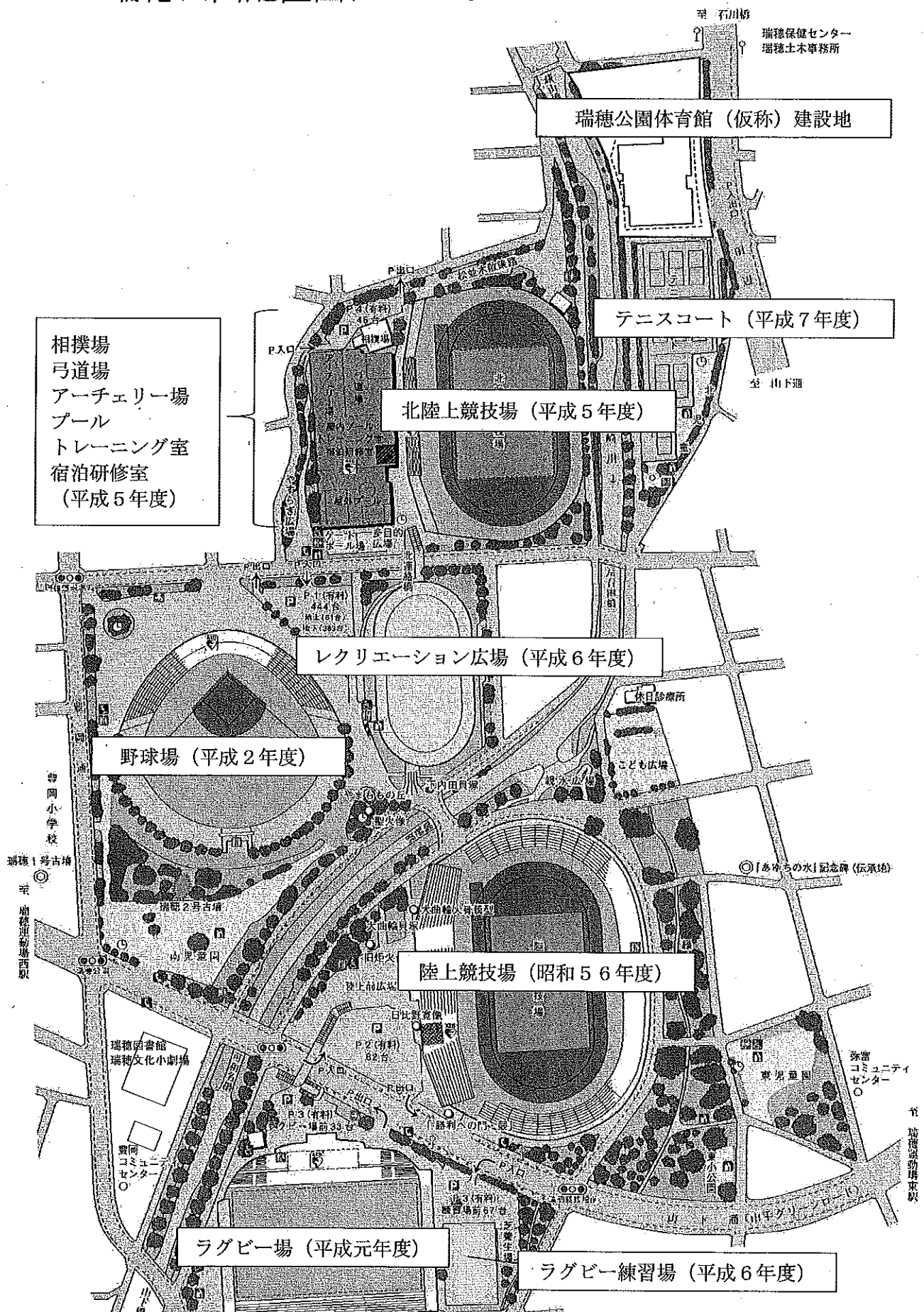
(単位：点、%)

区 分	収蔵資料数	寄贈資料数	割 合
15年度	211,734	189,595	89.5
20年度	220,792	198,648	90.0
25年度	242,075	219,453	90.7
29年度	269,739	247,031	91.6
30年度	270,098	247,390	91.6

(注1) 割合は寄贈資料数を収蔵資料数で除した数値を掲げた。

(注2) 平成30年度は平成31年1月末日現在の数値を掲げた。

1 3 瑞穂公園配置図について



(注) カッコ内の年度は、現在の施設の建築年度を掲げた。

1 4 B 6 型蒸気機関車の動態展示について

(1) 経緯

区 分	内 容
昭和43年度～	企業から科学館に寄贈されて以降、屋外で静態展示されていた。
平成24年度	(市長から、科学館のB6型蒸気機関車を走らせられないかとの発言があった。)
平成25～ 26年度	科学館の展示としての魅力を高めるため、敷地内での動態展示化を目指し、26年1月からボランティアの協力のもと、調査・整備を行った結果、ブレーキ等の一部部品が作動可能になった。
平成27年度	引き続きボランティアによる調査・整備を行った結果、車輪を回転させるには、偏心棒等の欠落部品の製作や、動輪・車軸等の調査・整備が必要であることがわかった。
平成28年度	上記調査・整備には車両の分解や持ち上げが必須であり、専門業者でなければ実施できないため、外部整備工場に調査を委託した。 当該調査は、あくまで「科学館敷地内での動態展示」を前提としたものであったが、結果として、走行する場合の課題や費用についての内容も含まれるものであった。
平成29年度	調査結果を受けて、B6型蒸気機関車の敷地内での動態展示を目指し、整備手法等を検討する間、上記工場において車両を保管するとともに、30年度予算として、動態展示に向けた調査・設計費等を要求したが、保管料のみ計上されることとなった。
平成30年度	31年度予算案として、動態展示に向けた調査・設計費を計上した。 (観光文化交流局が行っている「魅力資源の活用に係る調査研究業務委託」の中でも、「車輪の回転の仕組みを見せる動態展示」による活用が提案された。)

(注) 観光文化交流局が行っている「魅力資源の活用に係る調査研究業務委託」は平成31年3月末完了予定のため、提案内容については委託業者から聞き取ったものである。

(2) B 6 型蒸気機関車の動態展示に係る決算額

(単位：千円)

区 分	主 な 内 容	金 額
25年度	○ボランティア謝金	50
26年度	○B 6 型蒸気機関車プレート作成 ○ボランティア謝金	755
27年度	○ボランティアによる加減弁調査 に係る足場設置 ○ドイツ出張 ○ボランティア謝金	1,632
28年度	○車両調査委託 ○車両の搬出及び輸送 ○ボランティア謝金	63,056
29年度	○車両の保管	2,654
計		68,147

＜参考＞平成28年3月14日教育子ども委員会説明資料

B6型蒸気機関車の動態展示に向けた調査について

区 分	内 容
28年度調査 の主な内容	○車両の分解調査 ・動輪の回転調査 ・車軸等の歪み調査 ・ボイラーの耐圧調査 等 ○欠落している偏心棒一式等の製作、取付け及び調整 ○調査結果報告書の作成 ・複数の整備方法の提案 ・各整備方法に応じた経費の見積り
今後の目標	科学館敷地内において、28年度調査の結果を踏まえて実現可能な動態展示を検討する。